日々是好日　～校長室より～No.9

令和３年１１月６日
校 長 浦 野 浩 二

黄色い蝶がまた今年も・・・

校庭の樹々も色づき、中央坂（私が勝手にそう呼んでいる生徒昇降口から上の道路までの坂）を歩いていると金木犀の甘い香りが漂ってきました。中央高校の秋も深まりを見せ始めています。

みなさん元気ですか。秋といえば、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋・・・いろいろと名前が付けられていますが、それだけ何かに打ち込むのにいい季節だということなのでしょう。確かに秋の澄んだ空気は、気力・体力を充実させるだけでなく、心を深く見つめられる静けさも持っているような気がします。君たちも何かにじっくりと取り組んでみたらどうでしょうか。

【立ち止まる心の余裕】

中央高校ほど豊かな自然とともに芸術作品に囲まれた学校は全国でも珍しいのではないでしょうか。本館のエントランスホールや廊下など、いたるところに絵画や書、オブジェなどが飾られており、中央高校に癒しと彩を与えてくれています。もちろん校長室にも！忙しい毎日ですが、それらの作品の前で足を止める心の余裕も欲しいものです。たとえ見慣れた作品であっても改めて心が動かされるかもしれませんよ。

ここで今年度第 22 回高校生国際美術展において内閣総理大臣賞を受賞した大和あみさんの作品を紹介しましょう。

出典は、弘法大師空海の書いた「灌頂歴名」（空海から灌頂を受けた人の名前を記したもの）からだそうです。選者の講評によると「リズムや筆力、その時の感情から生み出される文字と文字の間の白（余白）、文字の中に見られる白く抜けた部分など、作者の作品に対する意気込みが感じられ、堂々と自分の思いを作品にぶつけたたいへん良い作品です。」とのことでした。頭でっかちの私はついつい作品を理解しようとして「難しい」と思ってしまうのですが、「理解」することより「感じる」ことを優先できるようになるともっと作品を楽しめるのかもしれませんね。芸術コースの皆さん、ありがとう。そして、これからものびのびと作品を生み出していってください。

【中央の熱男、本性を現す】

11 月 1 日（月）、全校生徒に向けて長野教頭先生による講話が行われました。

（一つ目の話）

中学校時代にバスケットボールを途中でやめた後悔、卓球部で味わった悔しい思いを語られました。

「悔しい思いや歯がゆい思いを経験することは大切、それによって一歩を踏み出すことができる。まさにそれが人生の醍醐味なんです。」

悔しい思いや歯がゆい思いを乗り越えてきた教頭先生だからこそ言える言葉でした。

（二つ目の話）

先日亡くなられた さいとうたかをさんにちなんだ話、さいとうたかをさんの代表作「ゴルゴ 13」の主人公デューク東郷の名前は、作者の恩師である東郷先生からとられたもの。中学校時代作者が白紙答案を出したとき、東郷先生がやってきてその答案を机の上に置いた。なぜ白紙で出したのか教育論をぶってやろうと身構えていた作者に東郷先生は、「白紙で出すのは君の意志だから仕方がないが、ただ君の責任の下でやるのだから名前を書け」と言われ、「人間の責任というのはこういうことか」と気づかされ、同時にショックを受けた。

「人生において自己責任が大切、自分が自己責任において選んだ道はたとえそれが成功しようが失敗しようが、それが正解。」

ネット上で匿名の誹謗中傷が溢れかえる現在、改めて自己責任の大切さが身に沁みる話でした。

そして最後に長野教頭先生の座右の銘、伝説の明治大学ラグビー部監督の北島忠治氏の**「前へ」**を連呼し講話は終わりました。拍手を強要するという若干パワハラまがいの熱い熱い 15 分間でした。本性を現した教頭先生の**熱男**ぶりに先生方も驚いていました。教頭先生、これも人生の醍醐味ですか？